

欧州のクリスマス

塚田 實

二〇〇〇年八月からロンドン郊外にあるH社の欧州統括会社に駐在した。担当地域はロシアを含む欧州と中東、アフリカで、欧州各国に子会社があった。

毎年クリスマスの頃になると、各国でクリスマス・パーティーを催すので、この機会に各国を訪問してタウンミーティングを開き、私から四十五分くらい会社の目指す方向性を語り、その後一時間半をかけて方針に対する質疑応答、現場の悩みや不満を話し合った。ミーティング後のパーティーでは大いに従業員との懇親を深めた。

ロンドンでは本社のあるメイドンヘッドのレストランを借り切り、私はバニーの頭飾りを被せられ、日頃会社では見ないドレスアップした女性達に囲まれて歌い踊った。ドイツにはデュッセルドルフとミュンヘンに事務所があり、夫々かなりの大所帯だった。私はテーブルを全部回って懇談することにしていたので、最後は酔っ払って大変だった。

会議の合間にマルクト・クリスマスに立ち寄った。賑やかな人混みの中にクリップと呼ぶキリスト降誕を祝う人形を売る店を見つけた。とても可愛いが、値段も張る。結局最初の年は誕生後のキリストとマリア、ジョゼフ像を、翌年は羊飼いの像を、更次の年は東方三博士の像を買った。

イタリア・ミラノのパーティーはイタリア人という性格もあり、天から明るく賑やかで、とても打ち解けた雰囲気になった。

北欧のパーティーも印象深い。ストックホルムにオスロやコペンハーゲンからも人が集まった。食事をしながら赤ワインにスパイスを入れた温かいグリューワイン（スウェーデンではグログ）を飲み、一通り飲むと次はアルコール度数の高い蒸留酒アクヴィヴィットに変る。この飲み方が面白い。飲む前に必ず全員で歌を歌い、それから乾杯する。終わるとまた歌を歌い乾杯する。これが果てしなく続く。北欧の人は酒が強く、同じペースで飲んでいるとこちらが参ってしまった。

欧州のクリスマスはとても明るく楽しかった。今では大騒ぎが懐かしい。